

令和6年度 授業改善推進プラン <国語>

	今年度の課題	改善策	年度末評価
第一学年	<ul style="list-style-type: none"> <li>漢字の読み書きをはじめとする基礎学力の向上が課題である。読むことや書くことができても、その字を使用して文章にすることや作文の中で使用することができない生徒が多い。</li> <li>家庭学習として課題を出してもやっけてこない生徒が多くいるため、授業内で「分かる」成功体験を積みませ、生徒自らが課題に取り組むようになることが必要である。</li> <li>自分の考えを他者に説明することを苦手とする生徒が多いため、他者に話すことに慣れる必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>漢字プリントを授業中の空いた時間に取り組みさせるようにする。プリントの中で、漢字を使った短文を書かせ、どういう場合に使用するのか理解させる。文の成分について既習しているため、「主語・述語」や「修飾語」を用いた文章を書かせ、漢字を使うことになれる工夫を行う。</li> <li>漢字を覚える速さは個々で異なるため、漢字テストは生徒のそれぞれのレベルにあったものを実施している。</li> <li>毎時間、協働学習を取り入れ、一つの課題に対してグループで解決に向かう活動を行っている。</li> </ul>	
第二学年	<ul style="list-style-type: none"> <li>昨年に引き続き、基礎学力の向上が課題である。漢字の読み書きはもちろん、語彙や文法等、基本的な知識の定着に課題がある生徒も多い。</li> <li>正確に文章を読解すること、筋道立てて自分の考えや思いを説明することを苦手とする生徒が多い。読解力、表現力を向上させることが求められるが、そのためにも、基礎となる漢字の読み書きや語彙の学習に力を入れる必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>プリントによる漢字学習を自ら工夫して行うことを繰り返すことで意欲向上と知識の定着を図る。</li> <li>語彙力を向上させるために国語辞典を活用することを習慣付けさせ、単元ごとに授業内で確認している。</li> <li>読み取る力を伸ばすために、短時間でできる読解問題を定期的に実施する。</li> </ul>	
第三学年	<ul style="list-style-type: none"> <li>基礎学力の向上が課題である。文章中に登場する言葉の意味が分からない生徒や、小学校で学ぶべき漢字の読み書きを習得できていない生徒が多い。基本的な知識の定着に課題がある生徒が多い。</li> <li>また、叙述を基に自分の考えを広げることが苦手な生徒も多くいる。特に物語の読解において顕著にそれが表れる。多くの言葉や物語に触れて、語彙を磨くことが課題である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>新出漢字の小テストを毎週行い、漢字学習に取り組む姿勢を育む。また、小学校の漢字の復習を繰り返し行い、定着を図る。</li> <li>短時間でできる読解や、読書を定期的に行わせる。多くの物語や考え方に触れさせることで、生徒たちの想像力を広げると共に、語彙を磨かせる。</li> <li>俳句を使った授業展開を計画する。限られた時数で言葉を選ぶことが語彙力の向上につながると考える。</li> </ul>	

## 令和6年度 授業改善推進プラン <数学>

	今年度の課題	改善策	年度末評価
第一学年	<ul style="list-style-type: none"> <li>①理解力に課題があり、困り感をもっている生徒への個別サポート。</li> <li>②基礎基本の未定着。</li> <li>③文章問題の読解と、そこから立式する力。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①2クラス3展開の少人数学習形態をとり、理解度が低い生徒を10名程選抜して基礎コースを編成、精選した内容と繰り返し学習で計算力の育成を図る。</li> <li>②問題集、類似問題、Qubena(AI学習)等を活用して繰り返し学習に取り組み基礎基本の定着に取り組む。</li> <li>③デジタル教材や数直線によるモデル図等を活用して、状況の視覚化を促し、問題内容をイメージする力を高める。</li> </ul>	
第二学年	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 小学校内容の未定着。</li> <li>② 中学1年の内容の未定着。</li> <li>③ 問題の読解力、理解力不足。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 2クラス3展開の少人数授業を実施する中で、そのクラスのレベルに合わせて、小学校の計算の復習を行う。九九をはじめ、四則計算、分数・小数の計算を出来るよう指導する。</li> <li>② ①と同様。正負の計算、方程式などを優先的に実施する。</li> <li>③ 授業中であれば、デジタル教材の活用や机間指導を強化する。授業時間外であれば、問題集や類似問題のプリントを通じて、問題演習を増やし、問題に慣れさせる。</li> </ul>	
第三学年	<ul style="list-style-type: none"> <li>①学習内容の理解の差と、学習に対する意識の差が大きい。特に、習熟が遅い生徒については、計算力も乏しい。</li> <li>②既習事項の未定着</li> <li>③基本的な課題を解決する力の定着</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①2クラス3展開の少人数授業を実施し、理解に課題の多い生徒に対しては基礎的な問題をくり返し解き、計算力を身に付ける。</li> <li>②③授業の中で、既習事項のおさらいから始めたり、反復練習などを行うことで頻繁に復習する時間をつくる。また、都立高校の入試問題をくり返し解くことで、既習事項をバランスよく練習し計算力を定着させる。</li> </ul>	

## 令和6年度 授業改善推進プラン <英語>

	今年度の課題	改善策	年度末評価
第一学年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・外国語理解の能力に課題がある。基本的な語彙、文法事項の定着が十分でないため、長文を正しく読み取り、内容を概ね理解する力が定着していない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書の音読、多読の機会を増やす。授業での単語テスト、学期ごとのリーディングテストを実施する。</li> <li>・長文読み取りドリルやワークブックを活用し、長文の多読を図る。</li> <li>・教科書の学習内容に関連した長文を読む。</li> <li>・スピーキングの基礎練習を行う。</li> </ul>	
第二学年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基本的な語句(単語や慣用表現等)や文法事項の定着が十分でないため、自己表現や長文の読解につながらない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・音読の習慣を付けさせ、暗唱させる。</li> <li>・単語テストや基礎的なディクテーションなど反復練習のできる課題により、語彙や文法事項の基礎力の定着を図る。</li> <li>・生徒が英語を実際に使用する場面を多く設定し、生徒が英語で自らを表現する機会を重ねる。</li> <li>・定期的に単語テスト、教科書の読みテスト、英語でのやり取りのテストを行う。</li> </ul>	
第三学年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基本的な語彙、文法事項の定着が不十分なため、既習事項を用いての自己表現につながらない。</li> <li>・言語活動の基礎となる反復練習に粘り強く取り組むことができない生徒が多く、言語を活用する技能、思考力、判断力の定着につながらない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・既習事項を用いての自己表現の機会を増やし、語彙、文法事項の定着を図るとともに、意欲的に語彙や新しい表現方法の獲得を図る一助とする。</li> <li>・反復練習の重要性を伝えていくとともに、意欲的に反復練習に取り組めるように単語テストや課題に工夫をしていく。</li> <li>・定期的に単語テスト、教科書の読みテスト、暗唱テストなどを行う。</li> <li>・ESAT-Jに対応したパフォーマンステストやスピーチを定期的に設定する。</li> </ul>	

## 令和6年度 授業改善推進プラン <社会>

	今年度の課題	改善策	年度末評価
第一学年	<p>基礎学力の定着と、情報や資料の読み取り、活用能力の育成が課題である。</p> <p>また家庭学習の習慣化ができておらず、なかなか学力の定着に結び付かない。</p>	<p>基礎学力の定着のため、授業前半での前時の授業の振り返りを行う。</p> <p>小テストを繰り返し開催し、学習の習慣を身に着けさせる。</p> <p>家庭学習の習慣化のため、AI 教材 キュビナを定期的に宿題に出す。</p>	
第二学年	<p>一人一人のタブレットを使った授業をほとんど行えていない。タブレットを活用して生徒の意見の变かや考え方の变化を共有できるようにする。</p> <p>また、生徒が主体的に学ぶ時間を設けるようにする。</p>	<p>単元終了ごとに振り返りシートの作成をし、学んだことを自分で使えるように指導する。主体的に学びに向かう時間を設ける。</p> <p>また、一つの質問を聞くときに、タブレットを使って、意見をテレビに出力し、見える化する。共有しながら学べる場を設ける。</p>	
第三学年	<p>落ち着いて教員の話や指示をよく聞いて、活動している。そのため、基礎基本の定着している生徒が増えている。しかし、地理と歴史、公民と歴史などを関連づけて深く考えることや、家庭で粘り強く学習に取り組む生徒がすくない。また積極的に発言する生徒が少ない。自信や勇気をもって発言する姿勢や、身に付けた知識を必要な場面で使おうとする指導を行いたい。</p>	<p>【基礎基本を身につける】</p> <p>授業プリントに基礎内容を記入できる個所を作って記入させる自信をもって発表させる。</p> <p>【表現・思考させる授業】</p> <p>・教材を提示し、自分で考えたり、複数で考えさせる授業を行ったり、タブレットを利用した授業を行っている。ノートなどに記入したことを、自信・勇気をもって発表させる。</p>	

令和6年度 授業改善推進プラン <理科>

	今年度の課題	改善策	年度末評価
第一学年	<p>①基礎的な知識が未定着だったり、算数の範囲の計算を苦手としたりする生徒が一定数いる。</p> <p>②実験結果から考察し、それをまとめ、発表することに課題が見られる。</p> <p>③実験の説明(方法や危険なこと等)、公式を用いた計算問題を解くことなど、思考力に課題が見られる。</p>	<p>①小テストやワークなどを繰り返し行うことで、知識の定着や計算力の向上を図る。</p> <p>②実験の際に、結果と考察の違いをその都度説明する。実験レポートを作成させ、まとめたり、発表したりする能力の向上を図る。</p> <p>③授業中に協働的な学習時間を取って、教え合いを行う。また、定期考査で記述問題・計算問題を出題するとともに、その対策となる問題演習を授業中にすることによって、思考力の向上を図る。</p>	
第二学年	<p>①粘り強く学習を進めることができる力について 基本的な用語や計算など基礎的な知識を問われる問題でも苦手意識をもち、学習に対する姿勢が不足している生徒が多い。</p> <p>②理解しながら学習を進めることができる力について 実験を行い、結果を適切に処理し考察する力が弱い。数値などを読み取り、科学的に追究する姿勢が不足している生徒が多い。</p>	<p>① 授業の冒頭に前時の復習を行い、振り返る時間を設けることで知識の定着を図る。また、単元ごとに復習する時間を設け、AI教材等を用いた上で、小テストを実施する。</p> <p>② グループでの学習の際に、自分の考えを述べる時間を設け、科学的に追究する能力をグループ毎に向上していく。また、発表を行うことで説明する機会を設ける。</p>	
第三学年	<p>①理解しながら学習を進める取り組み 自身の理解度を言語化することに課題が見られる。記述することを避ける傾向も見られる。</p> <p>②基礎学力の定着を目指した取り組み 通常授業での復習時間が十分に確保できていない生徒が一定数おり、基礎的な問題を解決しきれない生徒が一定数見られる。</p>	<p>①文章の形式を定め、提示し、日頃の振り返りに取り入れる。特に、学びを具体的に説明することに力を入れていく。</p> <p>②小テスト、単元テスト、定期テストと繰り返し問題演習に取り組みさせる。AIによる採点を取り入れ、即時フィードバックを行えるようにする。</p>	

令和6年度 授業改善推進プラン <音楽>

	今年度の課題	改善策	年度末評価
第一学年	<p>表現しようとする意図は持ってくるが、全体的に音量が弱く、表現力が乏しい。</p> <p>音楽用語や音符の知識は乏しい。</p> <p>静かに音楽鑑賞は出来るが、気づいたこと、感じたことを言葉に表したり、文章で表すことが難しいと感じる生徒が多い。</p>	<p>各パートリーダーを中心に自分たちの課題を挙げ、対策を考え実施していく。</p> <p>楽譜に読み方、意味を記入して歌唱を通して理解を深める。</p> <p>鑑賞するポイントを明確にする。話し合いを通して他の人の意見を参考に、文章の工夫をする。</p>	
第二学年	<p>意欲的に歌える生徒とそうではない生徒の差がある。</p> <p>静かに興味を持って鑑賞ができるようになってきている。気づいたこと、感じたことを言葉に表したり、文章で表すことが難しいと感じる生徒もいる。</p> <p>器楽(アルトリコーダー)では楽譜を読むことが難しいと感じる生徒が多い。</p>	<p>合唱コンクールを目標とする。歌える生徒の模倣が出来るよう声かけをする。</p> <p>感じたことを自分のことばで表現できるように考えさせる。話し合い活動を通して表現の工夫ができるようにする。</p> <p>グループ活動を中心に理解できる生徒が教え、お互いに理解を深めるようにする。</p>	
第三学年	<p>意欲的に歌える生徒とそうではない生徒の差がある。</p> <p>音楽を掘り下げて聴く力がない。一生懸命聞きたらうとはしている。</p> <p>創作については生徒に能力の違いがある。また、音階などの理解にも差がある。</p>	<p>合唱コンクールを目標とする。歌える生徒の模倣が出来るよう声かけをする。最上級生としての自覚を持たせる。</p> <p>共通事項に沿って考えをまとめることが出来るようにする。自分の言葉で音楽の良さを伝えることが出来るようにする。</p> <p>音符、音階を正しく理解して、自由な発想で創作ができるようにする。</p>	

## 令和6年度 授業改善推進プラン <美術>

	今年度の課題	改善策	年度末評価
第一学年	<p>美術の形や色彩、材料、光などの性質を基に、全体のイメージや作風などを捉えるという造形的な視点の基礎的な知識を理解するとともに、水彩絵の具の使い方など基礎的な技能を習得させる。</p> <p>主題を生み出し豊かに発想して構想を練ることができ、造形的な見方や感じ方を広げたりすることができるようにする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・色の塗り方や道具の使い方の基礎・基本を細かく指導する。</li> <li>・導入時に参考作品を多く提示し、イメージに繋がりをやすくする。また、アイデアスケッチを行い、考え、構想する時間を確保する。</li> <li>・生徒同士の作品鑑賞活動を行い生徒自身の作品、態度、生徒自身の考えを自己確認させる。</li> </ul>	
第二学年	<p>造形的な視点を基に、意図に応じて自分の表現方法を追求して独自の、総合的に考え創造的に表すことができるようにする。</p> <p>主題を生み出し豊かに発想し、構想を練ることができ、造形的な見方や感じ方を深めることができるようにする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基本的な表現技法、材料、用具を名称と共に、制作順序を理解させ効果的な造形活動をさせる。</li> <li>・鑑賞活動、教科書掲載作品の読解を行い、造形活動や生活や社会の中の美術や美術文化に興味をもたせ、集中力に繋がる授業環境をつくる。</li> <li>・生徒同士の作品鑑賞活動を行い生徒自身の作品、態度、生徒自身の考えを自己確認させる。</li> </ul>	
第三学年	<p>造形的な視点を基に自分の表現方法を、より発展させ総合的に考え創造的に表すことができるようにする。</p> <p>完成を予想して制作の順序などを総合的に考えながら、見通しをもって表すことができるようにする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分で考え、自己発見ができるように制作する時間を多くとる。</li> <li>・鑑賞活動、教科書掲載作品の読解を行い、造形活動や生活や社会の中の美術や美術文化に興味をもたせ、集中力のある授業環境をつくる。</li> <li>・生徒同士の作品鑑賞活動を行い生徒自身の作品、態度、生徒自身の考えを自己確認させる。</li> </ul>	

## 令和6年度 授業改善推進プラン <保健体育>

	今年度の課題	改善策	年度末評価
第一学年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各单元に対して取り組む姿勢は概ね満足できるが、苦手な分野への参加率が少なく、課題解決に一部問題がある生徒がいる。</li> <li>・グループワークを通してアクティブラーニングを行っているが、話す生徒と聞く生徒の二極化が著しく、生徒全員の意見が発信されていない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・段階別に取り組む内容の変化や分解練習を実施している。必要に応じて個別で指導するようにする。</li> <li>・ICT機器を活用し、動作を確認する機会を設ける。</li> <li>・生徒一人一人に意見を発信する機会を与え、その意見を基に課題解決につなげられるよう、生徒主体の環境をつくっていく。</li> </ul>	
第二学年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業で取り組んでいる内容から、自分の課題を見つけ、解決するための努力をすることができるようになってきた。しかし、その中でその場の雰囲気流され、判断を誤ってしまう生徒もいる。</li> <li>・グループで活動させ、話し合いや教え合い活動をするときも、リーダーシップを発揮する生徒が増えてきたが、自分の意見や考えを伝えることが苦手な生徒、正しい声掛けを聞き入れない生徒がいる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業の指示の中でポイントを的確に伝え、グループの中で仲間の課題や自分の課題に気づかせ、の解決方法については指導の中で複数提示し、選択して解決させることで、みんなで協力して実践する雰囲気を作る。</li> <li>・1人1台端末を使用し、自分やグループの課題を見付け、活動を振り返り、改善策を考えさせ、実践させる。</li> <li>・グループ活動の中で出たグループや各個人の課題を、学習カードを利用して振り返り、次の授業に活かす仕組みを作る。</li> </ul>	
第三学年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第一学年次から「教え合い」「学び合い」の学習活動を通して、生徒同士が積極的に関わり合いながら、技能を高められるように指導を進めてきた。一方で自ら仲間に関わることができず、受け身になりがちな生徒も存在する。</li> <li>・コロナ禍の影響もあってか、小学校の時に扱われる基本運動が十分(例:水泳の呼吸の仕方がわからない、マット運動の前転、後転が怖くてできない)。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・何を話し合うか、教え合うかを明確に示し、コミュニケーションをとりやすくする。</li> <li>・生徒それぞれの表現方法について「話す」以外に「書く」「描く」「動く(デモンストレーション)」も積極的に認める。</li> <li>・運動が苦手な生徒でも興味を持ち、取り組める課題を設定し、スモールステップで各々が課題克服できる場を設定していく。運動が得意な生徒は、教え役や師範役だけでなく、みんなで楽しめるゲームのルール原案作りなどに関わらせ評価していく。</li> </ul>	

## 令和6年度 授業改善推進プラン <技術>

	今年度の課題	改善策	年度末評価
第一学年	<p>【技術とものづくり】</p> <p>*低学力に伴い、物の大きさや寸法等が理解できず、正確な製図および製作が難しい生徒がいる。また、定規を使用して線を引く作業や、メモリを読んで、測定したりすることが困難な生徒がいる。</p>	<p>*視覚効果を高める立体や作品の提示と、学習を効率よく進めるため、1人1台端末を活用しながら映像を交えた授業を行う。</p> <p>*単位の復習をする。例、1cm=10mm。授業内で、生徒同士の学び合いの時間を設け、主体的に学習できるようにする。</p>	
第二学年	<p>【生物育成】</p> <p>*生活における食べ物と、動物、水産生物の育成技術の関連を知らない生徒が多い。</p> <p>*学校で生育させるための環境を整えていく。</p> <p>【エネルギーの変換と利用】</p> <p>*電気エネルギーは目に見えないので、数値や計算で導き出す必要があるが、基礎学力が低い生徒はなかなか理解難しい。</p>	<p>*学習プリント学習だけではなく、ICTを活用して、視覚的に理解させるようにした。</p> <p>*題材選びが重要であり、省スペースでかつ取り組み易いものを選んでいく。</p> <p>*実生活に結び付いた電気機器、機械など回路と仕組みの全体構造と部分構造の具体例を的確に示し、視覚効果を高めながら毎時の授業を展開する。</p> <p>*1人1台端末の活用で、回路や素子の仕組みを動画で学習し、理解度を高める。</p>	
第三学年	<p>【情報基礎】</p> <p>*パソコンに関する興味関心は高いが、情報モラルに関する稀薄な一面、パソコン自体のシステムトラブルや故障が多く、そのリカバリーができない状態である。</p>	<p>*パソコンスキルの格差の解消。</p> <p>*1人1台端末のデータ整理や容量整理をする。</p> <p>*興味・関心を高めるため、多岐にわたる応用ソフトウェアを有効活用する。</p>	

令和6年度 授業改善推進プラン <家庭科>

	今年度の課題	改善策	年度末評価
第一学年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ミシンの扱いに関して苦手意識を持っており、裁縫に後ろ向きな生徒が多い。</li> <li>・テスト勉強のやり方がわからない生徒が多く、勉強時間も短い。</li> <li>・集中力が続かない生徒が多く、切り替えが遅い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一人一台タブレットを持参しながら必要な時にすぐに動画を見られるようにし、繰り返し学習ができるようにする。また、リトルティーチャーを選出し、教え合いをすることで苦手な生徒が取り組める環境を作る。</li> <li>・副教材のノートを活用するように促す。テスト勉強のポイントを伝える。</li> <li>・話を聞く場面、話し合う場面、ノートに書く場面などその都度、切り替えができるようにタイマーを使って時間を意識させる。</li> </ul>	
第二学年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・提出物の期限を遅れて出す生徒がいる。提出物を期限内に出す意識が低い。</li> <li>・レポートでは、多くの情報から必要なものをわかりやすくまとめる力が弱い。</li> <li>・集中力が続かない生徒が多く、切り替えが遅い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・余裕をもった提出日を設ける。提出日に間に合わなそうな生徒は昼休みや放課後などの時間を確保する。</li> <li>・見本を用意する。発表し合う場面を設け、わかりやすくまとめているレポートを見る機会を増やす。</li> <li>・話を聞く場面、話し合う場面、ノートに書く場面などその都度、切り替えができるようにタイマーを使って時間を意識させる。</li> </ul>	
第三学年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の考えを具体的に文章化するのが苦手な生徒が多い。</li> <li>・聞かれたことに対して正対して答えられない生徒が多い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の考えをまとめる時間を多くとり、熟考させる。また、評価の場面で適切に書けていない生徒には具体的なアドバイスをする。</li> <li>・記述するポイントを明確に示す。評価のフィードバックを行い、改善が必要な生徒はその都度指導する。</li> </ul>	